

# 辺野古新基地建設工事の中止と 普天間基地の無条件撤去を求める請願

衆議院議長 様  
参議院議長 様

【紹介議員】

## 請 願 趣 旨

辺野古新基地をめぐるのは、翁長雄志知事が2014年11月の知事就任以来、「あらゆる手段を駆使して新基地は造らせない」と公約を守り続け、名護市民と沖縄県民の明確な反対の意思が重ねて示されています。2018年2月に行われた名護市長選挙のメディアの出口調査でも、NHKでは、75%が「辺野古新基地反対」、地元紙「沖縄タイムス」「琉球新報」、共同通信の合同調査でも64.6%が「辺野古移設反対」と回答しています。

2016年以来、米海兵隊普天間基地（宜野湾市）所属の米軍機による墜落や不時着、部品落下などの事故が相次いでいます。名護市の海岸に垂直離着陸機オスプレイが2016年12月に墜落し、東村の民有牧草地にCH53ヘリコプターが2017年10月に炎上、大破しています。同年12月には、宜野湾市の緑ヶ丘保育園や普天間第二小学校への部品や窓枠の落下事故を起こしています。一つ間違えば県民の命を奪いかねない惨事となる危険な事故を発生させたことは極めて深刻です。このような危険な基地は移設するのではなく撤去するしかありません。

政府は、名護市辺野古沖で埋立てに向けた海上工事を強行しています。

新基地建設反対の市民、県民の民意、地元自治体の意思を無視して工事を強行することは民主主義の原則に反するものであり、岩礁破碎許可を得ないなど違法な工事という点でも許されません。また、辺野古新基地建設は、希少生物への影響や土砂搬入に伴う環境問題など重大な問題が指摘されています。

政府は、「普天間基地の固定化を避ける」と言いますが、移設条件がある限り基地の返還が実現しないことは歴史が証明しています。普天間基地問題の解決は無条件撤去以外にありません。また政府は、「抑止力のために基地は必要」と言いますが、米海兵隊は遠征部隊であり日本防衛の任務を与えられていません。

以上の立場から、私たちは下記事項の実現を強く求めます。

## 請 願 項 目

1. 辺野古新基地建設工事を中止すること。
2. 普天間基地の即時閉鎖・無条件撤去をアメリカに求めること。

氏 名	住 所

取り扱い団体

【送付先】 安保破棄中央実行委員会 〒101-0062 東京都千代田区三崎町 2-11-13